

# 平成25年度 学校関係者評価報告書

学校法人呉竹学園  
東京医療専門学校  
学校関係者評価委員会

学校法人呉竹学園 東京医療専門学校 学校関係者評価委員会は「平成24年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告します。

## 1. 学校関係者評価委員

鍼灸マッサージ科  
鍼灸科  
業界関係：高田 常雄（東京都鍼灸師会 会長）  
卒業生：中村 耕三  
保護者：野中 幸治

柔道整復科  
業界関係：辰野 正和（東京都柔道接骨師会 事業部長）  
卒業生：澁谷 正司  
保護者：箕輪 光芳

校長：村居 眞琴

鍼灸マッサージ科/鍼灸科 科長：村上 哲二  
柔道整復科 科長補佐：田中 秀和  
鍼灸マッサージ教員養成科 科長：中村 眞通  
事務長：横瀬 稔

## 2. 平成24年度自己点検・自己評価における学校関係者評価

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組等
1. 教育理念・目的・育成人材像	<ul style="list-style-type: none"><li>●創立者の建学の精神のもと、教育理念・目標を定め、社会のニーズに対応した医療人の育成に努力している。</li><li>▲学生の多様化に対応できる教育体制、学習意欲の維持向上の取り組みが求められる。</li><li>▲保護者等に対し、ホームページやパンフレット等を利用した積極的な情報開示、情報共有が必要である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○社会のニーズを踏まえた、新たな知識・技術を提供する機会を拡充するとともに、学生個々の能力に応じた個別指導や効率的な補習などを実施していく。</li><li>○保護者等に対し、学校への理解をより一層深めてもらうため、情報開示ガイドラインに沿ったホームページ等での学校情報の開示内容を見直す。</li></ul>
2. 学校運営	<ul style="list-style-type: none"><li>●運営方針及び事業計画が策定されており、また運営組織やその意志決定の過程も明らかになっている。</li><li>▲業界や地域社会に対するコンプライアンス体制の整備の充実並びに教職員への周知徹底が必要である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○法令倫理に則った適切なコンプライアンス体制を構築し、それらを共通認識として共有することで法令遵守を徹底していく。</li></ul>
3. 教育活動	<ul style="list-style-type: none"><li>●国家試験合格率やこれまでの長年の実績から教育水準は高いと考える。</li><li>▲実践的な技術の獲得、治療家としての人間形成、モラルや意欲の問題、学生の習熟度など取り組むべき課題もある。</li><li>▲臨床実習を含めた臨床教育の充実、授業の理解が遅れがちな学生への対応など、これまで以上に組織的な教育体制の整備が求められる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○法令で定められた教育内容（医学的知識、技術の修得）に重点を置きながらも、業界・社会が求める実践力を持った臨床家を育成するための方策を議論し、企業や治療院の講師による特別授業の実施など、業団や企業等と連携したより実践的な技能を身につける教育に取り組んでいく。</li></ul>

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組等
4. 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全国平均を上回る国家試験合格率が示すとおり、学修成果は高水準をキープしている。</li> <li>▲退学の要因となる学習意欲の低下や成績不良に対する策として、入学時の早い段階から治療院見学などを通して意識を高めることはできないか。</li> <li>▲卒業生へのアンケート調査を実施し、卒業後の動向を把握し、調査で得られた情報を在校生へ提供してはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○引き続き国家試験全員合格を目指していく。</li> <li>○補習授業や1年次からの臨床見学実習を通して学習意欲の向上を図りながら退学率の低減に努める。</li> <li>○卒業後の動向、業界関係の情報収集に努めるとともに、それらの情報を在校生並びに保護者等に提供していく。</li> </ul>
5. 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●キャリアサポート、奨学金制度、担任制度などさまざまな形で学生支援を行っている点は評価できる。</li> <li>▲学生の精神的なケアも含めて、健康面でのサポートをさらに充実してもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○精神面のケアは、デリケートな問題ではあるが、教職員の対応力も含めて、学生個々の状況に応じて適切に対応していきたい。</li> <li>○保護者との密な連携を図り、学校教育への理解を促進していく。</li> </ul>
6. 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>●法令で定められている教育環境にあり、防災への意識も高く適切に管理されている。</li> <li>▲臨床教育の場となる附属施術所の活用方法の検討を望む。</li> <li>▲美容・高齢者・スポーツ関連など専門性が特に問われる学習環境の整備もお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学生および卒業生にとって、より価値の高い臨床施設となるよう努力していく。</li> <li>○社会のニーズに合わせた臨床教育を充実させる。</li> <li>○特別授業や卒前臨床講習会及びインターンシップの内容を検討する。</li> </ul>
7. 学生の募集と受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●あはき・柔整養成施設の指導要領、専修学校各種学校の規定に則り、適切に学生募集が行われている。</li> <li>▲学校説明会では、教育成果を具体的に伝えることが必要である。</li> <li>▲志願者の視点に立った学生募集活動の検討が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育成果を含めた具体的な学校情報を提示することで学校への理解を促進する。</li> <li>○志願者が求める説明、情報開示に努める。</li> </ul>
8. 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>●借入金がなく健全な経営により、安定した財務基盤となっている。</li> <li>▲厳しい学生募集の状況が続くことにより、財務基盤が弱体化する恐れもあるため、学生の安定確保と退学防止、経費節減等に一層力を入れてもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外部監査による健全な学校経営を維持するとともに、募集活動の強化、退学率の低減、経費節減に努める。</li> </ul>
9. 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>●法令を遵守し、自己点検・自己評価を行うと共にそれらの情報を公開している。</li> <li>▲コンプライアンス推進体制の強化が望まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○法令遵守にあたっては、規定を整備し、全教職員間において周知徹底を図ることにより、コンプライアンスを推進する体制を早期に実現する。</li> </ul>
10. 社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域社会と良好な関係が構築されている。</li> <li>▲専門性を活かした公開講座やセミナーを開催してはどうか。</li> <li>▲積極的にボランティアを支援することにより、学生への社会貢献の意識を啓発してはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○業界団体をはじめとするさまざまなボランティア活動の周知、支援を行っていく。</li> </ul>

### 3. 総評

上記10項目に対し、委員による評価の平均値は3.2(4段階評価)であったことから、東京医療専門学校での教育活動、学校運営は概ね高い水準で維持されていると評価する。

一方で、実践的な臨床教育の整備並びに学生の学力向上に対する取組等に対し常に時代に即した対応を行い、教育の質の向上に一層の努力を望みます。

以上